

## 2019年度事業報告

2019年度は、ラグビーワールドカップでの盛り上がりその後、台風15号、19号による強風、大雨、洪水による災害が首都圏で起こり、病院が被害にあったり、断水、停電による生活への影響が出たりした。そして、2020年1月になると新型コロナウイルスが猛威を振るい、中国の感染拡大の状況、クルーズ船の乗客の動向が連日のように報道されだし、その新型コロナウイルスの感染拡大は、病院関係者の一人である私たち医療ソーシャルワーカーの業務にも影響を及ぼし、転院や退院の手配など困難な事例が出てきた。

また、この新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、協会の事業活動においても影響が出るに至り、新人研修は、通年研修の2回分が2020年度に持ち越しとなり、グループスーパービジョンも3コースとも2月、3月分を開催できず、2020年に1回分を持ち越すこととなった。そのほか、東京都よりの要請で都民対象の公開講座や連続講座も中止という事態になってしまい、2020年2月からは委員会やブロックの活動も中止することになった。

ただ、2020年1月までは、2019年度の事業に計画されていた各事業を着実に実施していた。協会の「東京都医療社会事業協会」という名称の変更を検討することについては、会員へのアンケートを実施したり、委員会を開催したりした。東京都の委託事業である電話相談の「医療と暮らしのほっとライン」も多くの方の協力を得て、3月まで毎月4回定期開催を実施し、都民の医療、福祉に対する不安を受け止めてきた。

医療福祉問題研究委員会の「医療事故調査制度小委員会」は、2回の研修会を振り返り、医療事故調査制度の総括を行い、資料をまとめ、協会のホームページに報告書を掲載した。

地域包括ケアプロジェクトは、「病院・施設機能説明チャート」の改訂版の作成と地域包括ケアシステムの実際の状況を確認するため、東京都全域の聴き取り調査を進め始めた。

災害支援対策委員会は、首都圏直下型震災が起きた際、避難所での運営や支援を想定して、カード型の避難所運営ゲーム『避難所HUG（ハグ）』の体験会を実施した。

その他、日本医療ソーシャルワーカー会長のキャリアラダー部会と実習マニュアル部会に参加し、医療ソーシャルワーカーのキャリアラダーの作成や社会福祉士資格取得の実習指導マニュアルの作成を開始した。

協会の運営資金である会費は、今年度も未納者が100名近くとなり、会費納入の確実性を増すため、2019年度より銀行振替を実施し、2回の振替え作業を行った。

その他、事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1. 一般社団法人として求められている要件整備に努めた。
2. 事業に関する会員の理解を深め、会員が主体的にかかわり、積極的に参加できるよう努めた。
3. 医療福祉関係の他団体との連携を深め、公益事業と社会活動を推進した。
4. 東京都及び都議会各派へ、医療福祉の向上のため要望書を提出した。
5. 協会活動の情報提供や会員の意見交流の場として、出版活動及びホームページの充実に努めた。
6. 講座・研修会を開催し、会員の専門性の向上に努めた。
7. 医療福祉相談事業の充実に努めた。
8. 医療福祉問題研究委員会活動の充実に努めた。

## I. 管理運営報告

1. 公益法人の要件整備に努めた。
  - (1) 公益法人の最高意思決定機関である社員総会への出席会員の増員に努めた。
  - (2) 協会事務所の事務局体制を週5日稼働し、会計処理をはじめとした各部理事体制における事務処理の流れを事務局にて処理した。
  - (3) 公益法人の原資である会費については、各ブロックの世話人と理事の協力で未納会員の納入促進を図り、財源確保に努めた
2. 公益性の高い公益（自主）事業の継続に努めた。
  - (1) 広く都民に対しての公開講座を開催した。
  - (2) 江戸川区医療福祉相談会を開催した。
  - (3) 西東京市医療福祉相談会を開催した。
  - (4) 葛飾区医療福祉相談会の開催を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止した。
  - (5) 江戸川区神経難病検診を実施した。
  - (6) 豊島区医療福祉相談会を開催した。
  - (7) 医療関連12団体で構成する医療従事者ネットワーク連絡会を中心とした看護フェスタに「医療福祉の相談コーナー」を設置し、相談会を開催した。
3. 医療福祉向上のため都知事及び都議会各政党・会派に対し要望書を提出した。
4. 他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。
5. ブロック代表世話人会と地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会を定期開催し、各ブロックの活動を支援するとともに協会活動の活性化に努めた。
6. 地域包括ケアプロジェクトを通じ、東京都の地域包括ケアシステム構築に努めた。
7. 広報活動
  - (1) ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。会員名簿の掲載を行った。
  - (2) 会員向けに「東京MSW」ニュースを発行し、内容の濃い企画、編集を行い情報提供に努めた。
8. 次の事業について東京都から受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。
  - (1) 地域巡回医療福祉相談事業
  - (2) 電話相談事業（医療と暮らしのほっとライン）
  - (3) 医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座
  - (4) グループスーパービジョン（4講座）
9. 求人求職について「ホームページ」に随時情報を掲載した。
10. 会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話人会を通じブロッ

クに情報を提供した。

11. 相談会活動時に会員及び来談者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

12. 理事会、及びこれに準ずる活動時に参加者・出席者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

13. 当協会の名称変更の検討を行った。

14. 会員の異動状況（2019年度）

	正会員	準会員	賛助会員	合計
入会者数	83	9	3	95
退会者数	74	16	4	94
現会員数	650	74	10	734

\*2020年3月31日現在

表1. ブロック活動状況

第1ブロック		第2ブロック	
3/29	新旧世話人会	4/10	世話人会
4/26	世話人会	5/26	地域巡回医療福祉相談会 「八王子福祉まつり」
6/7	世話人会	6/18	世話人会
7/12	所沢エリアとの情報交換会	6/26	2B 交流会
9/6	世話人会	7/24	世話人会
10/29	勉強会 「障害年金について」 講師 加賀佳子氏	8/26	世話人会
11/9	地巡回医療福祉相談会 「東村山市民産業まつり内健康の集 い」	10/3	世話人会
12/13	世話人会	11/6	世話人会
1/21	新年交流会	11/19	勉強会 『身寄りのない方の入退院支援』 講師： 坪田まほ氏 (日本医療社会福祉協会)
2/9	世話人会	12/ 5	世話人会
3/12	勉強会 「高齢者虐待防止について ～相談・通報、協力連携体制、 記録の仕方など～」 →予定していたが、新型コロナウイルスの影響で中止に。	1/15	世話人会
世話人・運営委員	◎大高 愛美 (佐々総合病院) ○遠藤 沙予 (小平中央リハビリテー ション病院) 秋山 美優 (12月より遠藤と交代) ▲齊藤 翔 (東京白十字病院) 東 麻紀 (公立昭和病院) 富田 秀樹 (複十字病院) 栗田 直 (新山手病院) 小野 紋 (東大和病院)	◎武井 純一 (老健ぐらんぱぐらんま) ○大栗 里沙 (立川相互病院) ▲田原 真理子 (羽村三慶病院) 浅古 美絵 (東海大学八王子病院) 池田 千夏 (八王子山王病院) 石川 裕加里 (康明会病院) 山本 君枝 (相武病院)	

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第3ブロック		第4ブロック	
4/3	世話人会	4/17	世話人会
5/15	世話人会	5/21	世話人会
6/14	ブロック研修 「情報交換会」	7/10	世話人会
8/21	世話人会	8/3	施設見学会・情報交換会 永寿総合柳橋分院 (回復期リハビリ・医療療養型病床) ホームグランダ浅草橋 (有料老人ホーム)
9/24	世話人会	9/8	地域巡回医療福祉相談会・世話人会 「第30回みなと健康まつり」
10/17	世話人会	11/13	世話人会
10/31	ブロック研修 「訪日外国人に対する医療の法律・制度・医療機関について」	1/11	研修会・情報交換会 「MSWの着目すべき、障害年金などの制度の活用法について」
11/15	地域巡回医療福祉相談会 「いたばし健康まつり」	4/17	世話人会
11/16	〃	5/21	世話人会
12/17	世話人会	7/10	世話人会
1/26	独自相談会 「豊島区健康展」		
2月以降新型コロナウイルスの影響で活動休止			
世話人・運営委員	◎佐藤 三史郎 (小豆沢病院) ○小山 百合子 (中野共立病院) ▲隈元 朋枝 (大泉生協病院) ▲博田 俊行 (竹川病院) 山井 はるか (東京警察病院) 馬場 太郎 (順天堂大学医学部附属練馬病院) 飛松 真奈 (途中ブロック移動) 鈴木 美幸 (途中ブロック移動)	◎飯島 大樹 (永寿総合病院柳橋分院) ▲河副 春美 (三井記念病院) ▲小林 めぐみ (悠翔会在宅クリニック新橋) 青田 薫枝 (順天堂大学医学部附属順天堂医院) 阿部 靖子 (東京医科歯科大学医学部附属病院) 菊池 桃 (東京女子医大東医療センター) ○小川 絢多 (東京医科大学病院)	

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第5ブロック		第6ブロック	
5/10	世話人会	5/23	世話人会
7/3	世話人会	6/27	世話人会
8/2	世話人会、情報交換会	7/25	施設見学「東京リハビリセンター世田谷」
10/4	世話人会	9/5	世話人会
10/27	第41回江戸川区医療福祉相談会		
11/17	地域巡回医療福祉相談会 「ウエルピアかつしか」(葛飾区)	10/17	世話人会
11/20	見学会「看護小規模多機能施設 トータルケアレジデンス」	11/3	地域巡回医療福祉相談会 「OTAふれあいフェスタ」(大田区)
11/26	見学会「介護医療院 ひのき」		
		1/30	世話人会
12/5	世話人会	3月学習会—新型コロナウイルスの影響で中止 ブロックニュース—4回発行	
2/7	見学会「がん研有明病院」、世話人会		
3/7	葛飾区独自相談会→新型コロナウイルスの影響で中止		
3/18	勉強会→新型コロナウイルスの影響で中止		
世話人・運営委員	◎沓澤 郁子 (水野記念病院) 上田 美佐江 (がん研有明病院) ○加藤 大介 (東京東病院) 須藤 順子 (京葉病院) 中川 知子 (がん研有明病院) 倉知 志帆 (苑田第三病院)	◎杉井 隆子 (久我山病院) ○高木 美香 (日赤医療センター) ○桑島 綾乃 (目黒病院) ▲廣川 利恵子 (第3北品川病院) ▲岩本 亜加根 (JCHO東京蒲田医療センター) 酒井 周子 (世田谷神経病院) 茂木 真理子 (ブース記念病院) 大塚 利隆 (東京品川病院)	

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第7ブロック	
4/19	ブロックニュース発送
5/29	名刺交換会
6/11	世話人会
7/17	勉強会の打ち合わせ
8/2	ブロックニュース
9/7	勉強会
11/13	世話人会
12/1	地域巡回医療福祉相談会 「調布市福祉まつり」
12/23	ブロックニュース発送
2/1	世話人会 病院見学会 新年名刺交換会
世話人・運営委員	◎青松 貞光 (吉祥寺南病院) ○山田 ゆう子 (武蔵野赤十字病院) ▲横尾 めい (多摩丘陵病院) 清水 千秋 (都立神経病院) ○國吉 順子 (介護老人保健施設太郎) 溝口 今日子 (日医大多摩永山病院) 蛇子 佑香里 (榊原記念病院) 大中 一萌 (国分寺病院) ※途中退会

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

## II. 各事業報告

### 【定款第1号事業】

#### 1) 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

##### 1. 地域巡回医療福祉相談【受託事業】

地域巡回医療福祉相談は、各ブロックの運営委員会を中心に実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年7回実施した。

日程		開催場所	相談 件数	特別企画
1	11月9日(土) /10日(日)	東村山市 いきいきプラザ	14	東村山市民健康のつどい (アンケート 58件)
2	5月26日(土)	八王子市 富士森公園	11	八王子市 福祉まつり (アンケート 25件)
3	11月15日(金) /16日(土)	板橋区 グリーンホール	5	いたばし健康まつり
4	9月8日(日)	港区 芝公園	1	みなと健康まつり (アンケート 22件)
5	11月17日(日)	葛飾区 ウェルピアかつしか	10	かつしかボランティアまつり (アンケート 55件)
6	11月3日(日)	大田区 平和島公園	4	OTA ふれあいフェスタ (アンケート 86件)
7	12月1日(日)	調布市 調布市総合福祉センター	4	調布市福祉まつり (アンケート 62件)

##### 2. 電話相談（医療と暮らしのほっとライン）【受託事業】

2020年4月より月4回、電話相談を実施した。件数については、下記表中に含まれる。  
地域巡回医療福祉相談と電話相談の相談内容と件数

事 項	面接	電話	文書	計
病気から派生した本人家族の社会生活上の問題	0	7	0	7
病気又は治療の障害となっている心理的不安等 精神的問題	0	19	0	19
病気又は問題の要因となっている患者の家族関 係やその他の対人関係の調整	0	8	0	8
治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制 度の利用斡旋	0	12	0	12
医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題	0	32	0	32
看護や療養・生活指導をめぐる問題	0	11	0	11
退院後の社会生活への復帰をめぐる問題	0	0	0	0
その他医療福祉に関する相談	0	26	0	26
合 計	0	115	0	115



### 3. 公開講座【自主事業】

弁護士の八杖 友一先生を講師に迎え、「自分で自分の老後を決めませんか」というテーマにて2020年3月28日に開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響を懸念し、開催中止とした。

### 4. 難病検診への参加協力

難病無料医療相談会は東京都から委託を受け東京都難病相談・支援センターが実施している。2019年度は、8回の開催となった。

当協会では、難病無料医療相談会に毎回2～3名のMSWの派遣に協力し、専門医と面接前の事前面談を担当している。2019年度においてもMSWは、医師との面談の前に来所者の相談内容を確認し、20分という限られた医師との面談を有効に使えるように関わった。また、生活に関わる相談の内容には個別に相談に応じた。

①日 時：2019年4月21日（日） 11：00～16：30

対象疾患：ANCA 関連血管炎

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）、  
来談者：15名

②日 時：2019年5月19日（日） 11：00～16：30

対象疾患：好酸球性副鼻腔炎

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）  
来談者：9名

③日 時：2019年6月23日（日） 11：00～16：30

対象疾患：網膜色素変性症

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）  
来談者：10名

④日 時：2019年9月22日（日） 11：00～16：30

対象疾患：脊柱靭帯骨化症

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）  
来談者：12名

⑤日 時：2019年10月20日（日） 11：00～16：30

対象疾患：もやもや病

協力SW：高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）  
来談者：6名

⑥日 時：2019年11月17日（日） 11：00～16：30

対象疾患：多発性硬化症 視神経脊髄炎

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）  
来談者：14名

⑦日 時：2020年1月19日（日）11：00～16：30

対象疾患：IgA腎症

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）

来談者：11名

⑧日 時：2020年2月16日（日）11：00～16：30

対象疾患：サルコイドーシス

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）

来談者：13名

#### 5. 地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、清瀬市、豊島区の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場として、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。相談会のより一層の充実を図り運営事務手続きを整備し、各ブロックでの活動の支援を行った。

#### 6. 江戸川区医療福祉相談会【自主事業】

2019年10月27日（日）、江戸川区医師会会館にて第41回江戸川区医療福祉相談会を、医師会、江戸川区の後援を受け開催した。MSWによる急病時についてのミニ講座を行った。

2019年11月23日（土）、江戸川区介護フェア相談会を行った。実行委員として地域包括・社会福祉士会・司法書士・社会福祉協議会とともに中心となり相談会を開催した。

2020年2月14日（木）に江戸川区医療福祉連絡会を江戸川区と共に企画開催し近隣医療機関のMSWと区内地域包括支援センター、介護保険課相談員と共に「要援護者が抱える困難な問題への多職種による対応」について高齢者権利擁護センター相談員の講義とグループワークを行い、56名の参加があった。3月13日（金）は同講師による「入退院時における支援」、安心生活センター所長による「おひとりさま支援」についてグループワークも行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。（相談件数は順に12件、43件）

#### 7. 葛飾区医療福祉相談会【自主事業】

2020年3月7日（土）葛飾区パルフェスタにて、区の協力のもと相談会活動を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。

#### 8. 西東京市医療福祉相談会【自主事業】

2019年7月6日（土）至誠学舎東京研修センターにて民生委員向け勉強会を開催した。

民生委員10名、地域包括3名、MSW8名の参加があり、地図を利用して病院や施設の説明を行った。

また、2020年2月1日（土）田無総合福祉センターにて、地域包括支援センターとの意見交換会を開催した。退院調整時のよりよい連携に必要なことを話し合った。地域包括9名、在宅療養連携支援センター1名、市の担当課職員1名、MSW10名の参加があった。

## 9. 豊島区医療福祉相談会【自主事業】

2020年1月26日（日）豊島区ふくし健康まつりにて、薬剤師会主催の健康展の中に相談ブースを設置し、個別相談を行った。独自相談会として3年目の参加となり、薬剤師や保健師・看護師等、他の職種との連携が取れるようになってきている。（相談件数14件）

## 10. 江戸川区神経難病検診

江戸川区・区医師会主催、（社）東京進行性筋萎縮症協会後援の江戸川区神経難病検診について、当協会が参加協力の依頼を受けている。今年度は、2019年10月6日（日）江戸川区医師会館にて開催され、MSW2名を派遣し医療福祉相談に対応した。

## 11. 災害支援活動【自主事業】

大震災発生から9年を経過した現在も、被災された方々において健康問題や生活の場の喪失、孤立化など医療や福祉に絡む様々な問題が生じている。よって、今後も震災支援の継続が必要と考える。

一方で近年、全国各地において震災や台風、噴火など様々な自然災害が頻発している。

都内近郊においても、10月12日に発生した2019年台風19号により、都内各地で甚大な被害を受けた。今後も、南海トラフや首都直下型地震、風水害、大事故など、大きな災害が起こり得ることを常に意識していかなければならない。

被災者への支援、都内の災害支援対策の確立を目指し、2019年度は以下における活動を行ってきた。

### （1）支援活動の運営

東日本大震災以降、当協会内に「災害支援対策委員会」を発足。定期的に活動の打ち合わせを重ね、今年度は計10回開催している。

委員会の構成メンバーは、三役、各部理事、活動に賛同する一般会員である。協会内に委員会を設置することにより、2011年以来、継続的な活動を図ることが可能となっている。

### （2）被災者への支援

①2019年台風15号など、全国各地で頻発した災害時において、派遣支援の必要性も含め日本医療社会福祉協会や関東の他県MSW協会、被災県MSW協会、東京都社会福祉協議会など、多団体・多機関との情報共有や連携に務めた。

#### ②2019年台風19号

10月12日に発生した令和元年台風19号に関して、協会として以下の活動を行った。

「協会ホームページの災害支援情報掲示板の活用、及び会員の医療機関へのFAX送信による周知」「他県MSW協会・多機関との情報共有」

「各ブロックへの訪問やアンケート、電話などによる会員からの被害状況確認」

③協会事業である「医療と福祉ホットライン」のチラシを、東京都避難者支援対策部を通じて都内に避難された方々全世帯に配布するなど広報に務め、被災者の相談にも応じた。

④2020年2月29日に弁護士会館にて開催される「広域避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」に、昨年同様、相談ブースを設置する予定だったが、新型コロナウイルス対策につき、フェスティバル自体中止となった。

- ⑤その他、避難者交流会や広域支援ネットワーク等に参加し、各関係機関や団体と連携を図り、避難者支援を行った。
- ⑥東京都への直接要望を実施、「広域避難者の総合的支援の継続」「災害時の福祉支援の協働の充実」について要望を提出した。
- ⑦「子どもの甲状腺検診」（生活協同組合パルシステム東京主催）へのMSW派遣を受託、2019年10月26日、10月27日、11月16日の計3回、受診者へのアフターフォローの相談窓口に会員を派遣し、相談支援を行った。

### (3) 防災・減災、災害時対策

- ①災害関連情報ストック「みんなで学ぼう！災害制度」を協会内のホームページ内に設け、災害支援に関連する情報の蓄積に務めている。
- ②災害時の業務継続に備え、郊外のサテライトオフィスとの契約・データの保管を継続している。
- ③東京都社会福祉協議会主宰「災害福祉広域支援ネットワーク推進委員会」に参画。東京都や各専門職団体と、災害時における福祉支援に関する協議を図っている。2019年12月3日には図上訓練、12月19日に伝達訓練が開催され、当協会も参加した。
- ④昨年に引き続き、理事と災害支援対策委員会のメンバーと合同にて第2回大規模災害時想定訓練を2020年10月2日から19日にかけて実施し、災害時における協会組織としての対応力向上に務めた。
- ⑤別冊「つたえる」3号に関して、内容の検討・作成に務めた。
- ⑥災害時情報共有システムとして、MCS（メディカル・ケア・ステーション）導入の検討を図りました。

### (4) 会員や関係機関・団体への教育及び広報、協働活動

- ①災害支援ニュース「つたえる」を定期的に発行することにより、会員や外部に向けて、災害支援の継続的な必要性のアピールを行った。
- ②別冊「つたえる」第1号（平成25年6月出版）・第2号（平成29年3月出版）に関して、関係機関への配布に務めた。
- ③東京MSWニュースにて、災害支援対策委員会の活動報告を随時掲載した。
- ④代表世話人会参加や各ブロック訪問によって活動内容の共有と災害時連絡体制の検討に務めた。
- ④災害支援研修・ワークショップとして、「人工透析と在宅酸素の災害時対応についての勉強会」（2020年1月30日）、避難所運営ゲーム「HUG」体験研修に関して、理事を対象に2020年2月15日に実施した。なお、2020年3月12日の6ブロック研修は新型コロナウイルスの拡大を懸念して、中止となった。
- ⑤教育・啓蒙活動として、第38回日本医療社会事業学会（神奈川県）において、「8年という時間の経過がもたらす問題～災害時における組織と個人の課題～」の演題名にて、当協会の活動について発表した。
- ⑥災害関連の学会やシンポジウム、会合などに積極的に参加することにより他職種・他団体との交流や連携、情報交換に務めた。

以上、各関係機関や他県のMSW協会と交流・連携を深めながら、協会全体の協力体制の強化に務めた。

## 【定款第2号事業】

### 2) 会員の専門知識・技術の向上に関する事業

#### 1. 講座【自主事業】

2019年度は、「ソーシャルワーカーの基本を振り返る」を年間テーマとして計3回の夜間講座を計画した。

第1回は、2019年10月30日に渋谷区の家クラブ会館ホールにおいて、淑徳大学 佐藤 俊一先生をお招きし「ソーシャルワーカーの価値と倫理について」と題して、ご講演いただいた。

受講者は71名で、「とても高度な講義でした。今の社会に極めて則した内容で、佐藤先生の深い見識に驚きました」、「なんでそう感じたのと問い詰められて自分の役割に気づかされた、佐藤先生のスーパービジョンを思い出し、あの時の感動を思い出しました。自分の今があるのはあの時の授業のおかげです。今日また大切な思いを気づかされてとても満足しました」、「経験を重ねると先が予測される中で支援してしまうことに陥ってしまっていると感じています。目の前のクライアントへ誠実に向き合う、今、ここを大切にすることを見つめなおしたいです」、「とても面白く、もっと聞きたい講義でした。How Toものではなく、こういった講義は不変な内容なのでコンスタントにしていきたいと思います」、等の感想が寄せられた。

第2回は、2020年2月22日に「当事者の視点から専門性を再考する」と題して、また第3回は、2020年3月に「ソーシャルワーカーとして忘れてはならないこと」と題して開催を企画していたが、新型コロナウイルスの影響により延期となった。2020年度に改めてこの2回は開催する。

この夜間講座は、公益社団法人日本医療社会福祉協会の認定医療社会福祉士申請のためのポイント対象の講座である。今年度は新型コロナウイルスの影響で1回の開催になってしまったが、今後も協会の興味を引くようなテーマの選定や、利便性のよい会場の選定など、取り組んでいきたい。

#### 2. 研修会 ※講師 敬称略

##### (1) 新人研修【自主事業＋一部受託事業】

2019年度も通年コース（2時間20回）と集中コース（2時間6回、7時間2回）の2つのコースを設定した。会場は、通年コース・集中コース共に家クラブ会館を利用して開催した。

受講生募集方法に関しては郵送での申込み形式をとり、通年コースが40名定員のところ申し込み数が34名、集中コースが20名定員のところ28名の申し込み数となり、集中コースは定員を超える人数となったが、講師への相談や会場の状況の確認をした上で、申し込み者全員を受け入れ開講した。集中コースは全ての回を無事に終了することができた。通年コースは2回、新型コロナウイルスの影響で延期となってしまったが、社会情勢をみながら今後振り替えて行うことになっている。なお、例年同様、前年度の受講生に協力員として参加を依頼した。

また、今年度も受講生に講義内容の振り返りとして毎回「気づきと感想」を提出してもらい、今後の研修内容の検討材料として活用した。

【講師】 武内 昶篤 （東京都医療社会事業協会副会長）

樋口 昌彦 (至誠会第二病院)  
仲谷 美恵子 (森山記念病院)  
平岡 久仁子 (帝京平成大学)  
加賀 佳子 (よつばサポートオフィス)  
柴田 礼子 (順天堂大学医学部附属練馬病院)  
小嶋 章吾 (国際医療福祉大学)  
小松 美智子 (武蔵野大学)

## (2) グループスーパービジョン【受託事業】

### ①Aグループ

【講師】古屋 龍太 (日本社会事業大学大学院)

毎月第1火曜日に受講生9名で東京芸術劇場にて開催されたが、3月の講座が新型コロナウイルスの影響で延期となった。改めて振り替えを行うことになっている。

昨年同様に、事例提供者が事前に文字列でまとめる印刷資料は配布せず、全て言葉でやりとりを行い、講師がその内容をホワイトボードにまとめていくスタイルで進められた。受講生は事例提供者に質問をし、事例に肉付けを行っていき、事例提供者は事例と事例提供者との関わりのプロセスとストーリーを確認しながら、自身の関わりや想いを言語化していく。他の受講生からの視点で発せられる言葉に耳を傾け、再度事例の整理を行いながら、最後に励ましの言葉をもらい終了していく。

受講生からは「もやもやした気持ちを振り返る時間もなく、日々の業務に追われていたが、事例を提出し、自身の不足している点や無意識な苦手意識に気づくことが出来た。感覚的なもやもやが言語化されることで、具体的に次の支援に繋げていけそうなモチベーションも維持できる講座であった。他院の状況を知れ、同じMSWの悩みを共有出来たため、良かった。」「考え方や感じ方を様々な視点から話すことが出来て良かった。」「機能の異なる病院での事例を一緒に考える機会を頂き、支援内容の新たな学びや、異なる病院機能ならではの環境の違いを知ることも出来る良い時間だった。」という意見があり、満足度の高い講座であったことが伺える。

### ②Bグループ

【講師】石井 三智子 (元、武蔵野大学 現、日本社会事業大学)

8名の受講生で開始した。原則毎月第4木曜日に家庭クラブ会館と、数回東京芸術劇場を使用して開催されたが、2月と3月の講座が新型コロナウイルスの影響で延期となった。初回はオリエンテーションを行い、2回目以降は受講生からの事例提示と全体での事例討議、および講師からの文献を用いた講義と振り返りという形で開催した。受講生の経験年数は1～3年であった。受講生からは、「毎回やわらかい感じで皆で話すことができるのがよかった。アドバイスやよく頑張っていると認めてもらえるのがとても嬉しい。日々もやもやしたことがあっても受講する中で元気や勇気がもらえる」、「実際に業務で悩んだケースで、上司からのスーパービジョンも受けてはいたが、組織としての考えも含まれたものであった。今回の講座は、純粹にケースについて考える事ができる場であったのと、同じくらいの経験年数で同じ様な悩みやつまづきをもつ受講者との情報共有を行えたことが、次のケースへの工夫に繋がることになり、とても役にたちました」等、満足度の高い感想がよせられた。なお、延期となった講座については、振り替えを行うことになっている。

### ③Cグループ

【講師】助川 征雄（聖学院大学）

毎月第3金曜日に受講生5名で家庭クラブ会館にて開催された。尚、新型コロナウイルスの影響により2・3月分は延期となり、時期を鑑み振り替えを行うこととなった。

グループでは毎回、担当受講生より提出された事例について、受講生皆による対応方法の検討や振り返り、講師からの視点の投げかけや理論的助言を加える形で、支持的な関わりを中心としたグループスーパービジョンが展開された。受講生からは、「先輩SWから後輩SWへ実践的なアドバイスができて有意義だった。日頃の業務での悩みや困った事など、比較的経験年数が近いメンバーと共有し、アドバイスをもらうことができた。受講後少し前向きになれた」等の意見が聞かれ、高い満足度が確認できた。来年度もさまざまな経験年数の受講生同士が円滑な意見交換が出来るよう工夫を図っていく。

### (3) スーパーバイザー養成講座【自主事業】

【講師】福山 和女（ルーテル学院大学）

毎月第3火曜日に受講生10名で家庭クラブ会館にて開催された。

講師からの問いかけに答えつつ、日常のスーパービジョンでの疑問点・困難点・出来ていることの妥当性の証明など、ロールプレイを交えながら検討していった。

講座終了後のアンケートでは、「新しい視点をもらえる講座であり、経験年数に関係なく学べる場と感じた。」「講師の語りに引き込まれ、受講生の発言・話し合いを通し、自分自身の実践を振り返り、スーパービジョンの深さについて、じっくり学べた1年間であった。」「受講生に『考えさせる』質問の投げかけがあり、毎回とても興味深く参加していた。理論の把握とそれを活かす大切さを理解しつつ、実践でどう生かしていけば良いのかわからなかったが、実践を想定したロールプレイで答えてくれた。機会があれば、また参加したい。」等の声が聞かれた。

### (4) 多問題を抱える家族の理解と支援【自主事業】

【講師】山本 由紀（遠藤嗜癖問題相談室室長／上智社会福祉専門学校）

全5回の講義を12～3月までの4日間で開催を計画し、10名の参加者が受講した。

尚、新型コロナウイルスの影響により3月分の講座は延期となり、時期を鑑み振り替えを行うこととなった。

講義は実践的な学びになるよう、受講生には事前課題として指定書式で事例提出をしてもらい、毎回講師による講義とともにテーマに沿った事例を選出しワークを行った。受講生からは「講義を受けた上で、提出していただいた事例を家族システム論で考察することで視点を学びやすいと感じた」という声も聞かれ、講義形式は高評価を得た。又「家族の捉え方や問題の捉え方、クライアントに今の立ち位置や状況を伝えていくことの大切さを改めて学んだ」「MSWが家族システムの変化や分離を良いことと受け入れて支援することを今後の業務に生かしていきたい。」といった家族システムの考え方の学びの場となったとともに、「患者さん本人だけでなく、家族や周囲の環境に目を向けることが重要であるが、患者さん本人の意思や希望を置き去りにしてはいけないことを改めて感じる事ができた。」「急性期病院に勤務していると、関わる時間の短さから、どうしても“現在”を見がちになってしまいます。しかし講義を聞き、そのクライアントの生活歴などをタイムラインに起こし、ど

のようにその家族が形成されてきたのか、丁寧にアセスメントしていく大切さを学んだ。」等、SWのアセスメントの深化につながる実践に取り入れやすい講義と評価を得た。

第1回 家族の状態についての家族システム論からの理解

第2回 家族が変化するとき～統合的家族支援の展開

第3回 DV・虐待等暴力のある家族の介護や看護、共依存関係と支配関係

第4回 家族の文脈：文化と統合をめぐる理解と対応

第5回 ひきこもりなど複合的な問題のある家族

### (5) SW実践力を鍛える ～アセスメントに根拠をもつ～【自主事業】

【講師】佐原 まち子（一般社団法人WITH医療福祉実践研究所代表理事）

昨年度に引き続き今年度も、1回5時間の講座を全3回、7月～9月までの間、月に1度日曜日にNATULUCK市ヶ谷外堀通り中会議室にて開催し、21名の参加者が受講した。午前中の2時間程度は、講師による講義を行い、午後の3時間程度は午前中の講義に基づき実践するスタイルをとった。1回目は「エコマップとタイムラインによるアセスメント方法」として、事例を基にエコマップを描くことからアセスメントをし、それを書く演習を行った。2回目は「面接のスキルを整える」として、情報収集の技法を学び、ロールプレイングを中心に面接を効果的に進める演習を行った。3回目は「インシデントプロセス法による事例検討からアセスメントを学ぶ」として、インシデントプロセス法を知り情報収集するロールプレイングと、それをもとにアセスメントを書く演習を行った。

受講生からは「自分自身が普段何となくインターク面接をし、アセスメントをしていることを深く反省しました。しっかり情報収集を行い、エコマップが作成できるようになりたいと思います。」「今回の研修では、援助者が問題を解決することではないということを自覚しているか、ということを考えながら情報収集や面接をすることが大切であることが一番心に残りました」「インシデントプロセス法は初めて学んだ。部署内でケース検討する際にも使えそうなやり方だと思った。情報収集でひとり一問ずつ質問していくことはわかりやすくメンバーが自由に参加できてよかった。また、1つの質問でぐっと情報が深まりケースの状況が少しずつわかってくるのがおもしろかった」等の感想がよせられた。休日に集中して学べること、昨年度の連続性という点でも理論と実践をあわせて1日で学べるスタイルは好評であった。

### 3. プログラム検討委員会

協会の研修事業の体系、内容などを検討する諮問機関である。今年度は次年度の新人研修の内容を改正することについて協議を行なった。

- 【委員】伊藤 正子（法政大学）  
井上 歩（河北リハビリテーション病院）  
内田 美沙子（田無病院）  
大宮 謙一（荏原病院）  
鎌田 由佳（三愛病院）  
佐藤 真弓（ふれあい相互病院）  
田上 明（東京都清瀬喜望園）  
中辻 康博（豊島区医師会）  
原田 剛（新山手病院）



## 【定款第3号事業】

### 3) 医療ソーシャルワークの必要な調査研究に関する事業【自主事業】

#### 1. 医療福祉問題研究委員会〔自主事業〕

当委員会は、「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャルアクションを行なうこと」を目的に活動を行う。理事会が承認する専門部会である。

##### (1) ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い

2019年度は、これまで6年間の活動を総括した成果として、現場の実践に還元できるよう援助者のための視点マップ作成を検討した。委員会を開催し、協力員が集まって打ち合わせを重ねてきた。

##### (2) 小児医療問題専門小委員会

当委員会はもともと小児在宅医療をどう広げるかという視点で活動していたが、2018年12月に「成育基本法」が成立し、胎児期から次世代を育成する成人期に至るまでの健康問題等を包括的に捉えて医療・福祉を切れ目なく提供するための施策が推進されることになったこと、そして、私たちも妊娠にまつわる問題、小児医療や子育て、教育における課題等にも目を向けていくことの必要性を感じていたことから、「小児医療問題専門小委員会」から「成育医療等を考える小委員会」と名称を変更した。

また、活動としては2019年11月に業務の中で成育医療にどのような関わりがあるか等のアンケート調査を行い、62名と多くの方から回答が得られ、実際に様々な関わり方があるということや今後の活動を考えていく上での貴重な意見を集めることが出来た。

##### (3) 医療事故調査制度小委員会

制度が出来た経緯や仕組みを知った上で、ソーシャルワーカーとしての関わり・取り組みを学ぶため、2017年度より委員会を発足し、研修会を開催してきた。2019年度は、今までの活動を総括し報告書にまとめ、当協会のホームページに掲載した。

## 【定款第4号事業】

### 4) 刊行物の発行に関する事業

#### 1. 会員向けニュースレター「東京MSW」の発行（各号1,000部）

会員向けニュースレター「東京MSW」349号（5月）、350号（8月）、351号（11月）、352号（2月）を発行し、会員相互の情報共有、新しい情報の提供を行うとともに、協会活動を発信する媒体として機能するような内容の充実に努めた。

#### 2. 機関誌『医療ソーシャルワーク』68号の発行（1,150部）

協会機関誌である『医療ソーシャルワーク』68号（3月）を発行した。